

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム そら
訪問調査日	平成20年6月25日
評価確定日	平成20年8月19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム そら
所在地	鹿児島県薩摩川内市横馬場町8-11 (電話) 0996-23-6000

評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(平成20年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.85 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3.8000 ~ 4.4000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数		9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1		2 名		要介護2	1 名	
要介護3		4 名		要介護4	2 名	
要介護5		名		要支援2	名	
年齢	平均	85.6 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	Kメンタルクリニック 高江病院 やなぎた歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心街に立地しており、敷地内に法人施設(病院・老健・デイサービス・ヘルパーステーション)があり、周囲に川内駅・デパートや商店など利便性の良い環境の中に開設されているホームである。運営者・管理者の思い(家庭的・笑顔・その人らしさの理念)を職員は一つにして、利用者にに関わり信頼関係を構築している。ホーム内はゆったりと穏やかな雰囲気が漂い、利用者・職員の明るい笑顔が印象的である。職員は家族などの会話の中から本人の昔の夢を聞き取り、夢(英会話・俳句を詠む)の実現に向けて英会話教室や俳句の添削(ボランティアによる)をしてもらったり、また車椅子で行けないイベント参加の為に筋力運動の必要性から、階段の昇降の訓練・万歩計を使用しての筋力運動などをケアプランの中に組み込み実践している。イベント参加の際には職員・利用者ともに正装して出かけ充実した一日を共有している。多くの人と地域資源との関係を築き支えられている。職員の思いは家族などとの信頼関係に繋がり、住み慣れた町で当たり前の暮らしを実践しているグループホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域の行事(郷土芸能)に参加したり外国人ボランティアによる英会話指導や俳句の添削、自治会の茶話会、実習生の受入れなど交流が行われている。玄関の施錠についてはしっかりとポリシーを持ち、家庭の玄関として利用者は当たり前の生活をしている。居室へなじみの品を持ち込み安心して生活を楽しんでいる。改善課題に取り組みサービスの向上に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	運営者・管理者職員は評価の意義について話し合い、全職員で自己評価に取り組み、ケアの振り返りの機会としてとらえている。自己評価に取り組む事により職員間の共通認識が高まりケアに活かされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表・行政職員・教授・福祉アドバイザーなどの参加を得て定期的に開催されている。取り組み内容に「利用者の運動についての工夫を」という、意見に対して個々に万歩計を持ってもらい、運動量を記録し自立支援に繋げ、実施状況は都度報告している。協力関係を構築しながらサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見・提案箱を設けている。来訪時や家族会の際に思いや意見が出されている。利用者の過去の夢を(英会話・俳句)聞き、(英会話教室や俳句の添削など)表現している。職員は要望などの対応に努め運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の行事(すずかけ馬・お田植え祭・はんや祭・花火大会)に参加している。外国人ボランティアによる英会話や俳句の添削、自治会の茶話会、実習生の受入れなど交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が今までの生活を継続できるように寄り添い触れ合いながら生活し、地域の人たちとの深い絆を結べるように支える理念を各職員の思いを集約して作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はホームの理念を毎月のミーティングで話しており浸透と共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(すずかけ馬、お田植え祭、花火大会)に参加している。外国人ボランティアによる英会話や利用者の俳句の添削指導、自治会(福祉アドバイザー)の茶話会、実習生の受入れなど交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価意義について話し合い全職員で自己評価に取り組み、ケアの振り返りの機会としてとらえている。職員間の共通認識が高まり、ケアに活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、行政職員、教授、福祉アドバイザーなどの参加を得て定期的開催している。取り組み内容に「利用者の運動についての工夫を」という意見に対して個々に万歩計を持ってもらい運動量を記録し自立支援につなげ、実施状況は都度報告している。協力関係を構築しながらサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と定期的に会合を行っている。また事業所の取り組み内容など報告し、サービスについて相談しながら関係者作りを積極的に行い質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヵ月に1回発行している「そら便り」や電話、来訪時、ケアプラン作成時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は事務局で管理しており、記録や領収証のコピーにて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、提案箱を設けている。来訪時や家族会の際に思いや意見が出されている。利用者の過去の夢を聞き、実現に向け取り組んでいる。職員は要望などの対応に努め運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者、家族などとのなじみの関係を重視したケアを心がけている。やむをえない異動の場合には新職員には研修を行い、利用者にはダメージを受けないように十分な説明をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が有り外部研修は段階に応じた研修に参加し、月1回の勉強会もしている。資格取得者も数名おり、またチャレンジしている職員に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区協議会に参加し、同業者との交流の機会を設けている。また他事業所の実習生の受け入れや相互訪問など積極的に行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には本人の生活状態、思いや不安を十分聞いている。またなじめるように見学や茶話会に参加してもらい信頼関係を築き不安なく入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添い心のケアに努めている。一人ひとりの得意とする(生花・習字・草取りなど)事や、口頭で詠む俳句を記録しながら感動したり、お礼の言葉に励まされながら支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を言葉や表情から把握するよう傾聴や見守りに心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴、希望を把握し、家族などの思いを聞きカンファレンスで職員の気づきや意見を出し、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをしている。状態変化に応じてモニタリングを行い、カンファレンス時に評価をして見直しに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族などの状況に応じて病院受診や友人宅訪問・自宅訪問など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる内容の統一した指針づくりはこれからの課題である。	○	重度化や終末期の対応指針を定め、方針の共有が求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意し、記録の仕方や書類持ち出しなど細心の注意をしている。また、職員採用時の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活スタイル(起床・食事・散歩・レクリエーションなど)を把握しており、利用者本意の暮らしができるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材類の購入、下ごしらえ、配膳、下膳などできる事をしてもらい、職員も一緒にサポートしながら食事をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や身体状況に合わせて支援している。入浴嫌いな利用者に対しては声かけ、常日頃の関係づくりの工夫をして誘導している。足浴、部分清拭なども行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道・琴・生花・工作・草取り・俳句など利用者の趣味や特技を発揮できるようにしている。また、ドライブや季節行事に参加したり、化粧をして正装しイベントに参加するなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、買い物、行事外出、デイケアの人たちとの交流など、出かける機会を作っている。また自宅訪問、友人訪問、名所見学などに出かけて閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。プライバシーに配慮しながら見守り、外出の際にはさりげなく声かけし一緒について行くなど安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と一緒に昼間・夜間を想定した災害訓練を行っている。またホーム独自の訓練も定期的に行っている。災害に備えて備蓄もされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・体重測定など記録し、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて、おかゆやキザミ食など提供している。栄養士のアドバイスを元に献立を作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は清潔で換気も良く、音や照明にも配慮が行き届いている。慣れ親しんだ季節行事の手作り装飾や家具類、生花など工夫がなされて、利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・ソファ・鏡台・化粧品・タンス・琴・写真・ぬいぐるみなど使い慣れた物が持ち込まれている。また洋室・和室を設けており、好みの居室を選び、安心して生活を楽しんでいる。		